公共牧場の新たな活用

和牛肥育前期の放牧活用（和牛繁殖肥育経営体への貸付）

【公共牧場名】白木八重（しらきばえ）牧場（宮崎県木城町）

- 宮崎県木城町は、町が所有している公共牧場（白木八重牧場）を、牧場利用組合へ管理委託して周年利用していたが、牧場管理人が高齢のため継続雇用できなくなったことから、牧場利用組合での利用継続が困難となった。

  このため、令和３年度から宮崎県内の(有)有田牧畜産業と賃貸契約を締結し、白木八重牧場を貸し付けている。

- (有)有田牧畜産業は、宮崎県内で黒毛和種を主体とした約7.5千頭の肉用牛の繁殖・肥育経営を行っている。また、食肉加工センターを有し、委託を受けて加工した食肉の全国販売や、自社肥育牛のと畜後の枝肉処理から製品加工・販売等を行うほか、牛肉の海外輸出にも積極的に取り組んでいる。

  白木八重牧場では、発育が遅れている肥育素牛や繁殖素牛等（最大70頭／日）を各個体３～４か月程度放牧して、発育の改善や良好な骨格形成等を目的として利用している。

白木八重牧場

所有主体：宮崎県木城町
牧場開設年：1967年
経営形態：肉用牛の周年利用
牧場総面積：放牧地７ha

標高460mの高台に位置する眺望の美しい牧場

賃貸契約

(有)有田牧畜産業

経営形態：繁殖・肥育、食肉の委託加工、牛肉の卸・販売等
飼養頭数：黒毛和種等 約7.5千頭
販売形態：業務用・小売用、直売店、空港売店等
牛肉海外輸出実績：香港、台湾、アメリカ

木城町のふるさと納税のお礼品「有田白木八重牧場育ちの黒毛和牛」としてＰＲ

賃貸の条件

公共牧場である白木八重牧場を畜産経営体に貸付けするにあたって、これまで牧場を利用していた牧場利用組合の意向を確認するなど関係者の同意を得た上で、プロポーザルにより貸付先を選定

・賃貸契約期間：３年間（令和３年４月～令和６年３月　以降毎年更新）
・使用料：年間35万円
・牧場の利用形態：和牛及び乳牛の放牧利用
・放牧できる家畜の頭数：草地１ha当たり70頭／日以内
・利用条件
①牧場利用者が町内に住所を有していること
②牧場全域を利用すること
③肉用牛経営を行うこと
④外部から堆肥及び家畜排せつ物等を持ち込まないこと　等

効　果

木城町

・管理委託に係る経費の支出が削減された
・賃貸による収入を確保できるようになった
・町職員の牧場管理業務量が削減された

Win-Winの関係

(有)有田牧畜産業

・発育不良の牛を放牧することにより、野草の物理性でルーメンが刺激されるとともに、足腰が鍛えられて良好な体格が形成され、生産性が向上した
・放牧牛の中で資質の良い個体を選抜して、効率的に優良繁殖雌牛を確保できるようになった

双方とも
今後も白木八重牧場の賃貸契約を
続けていく意向

【本資料に関するお問い合わせ先】
一般社団法人　日本草地畜産種子協会
電話：０３－３２５１－６５０１　　E-mail：info@souchi.lin.gr.jp

令和５年３月作成

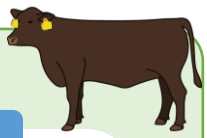
公共牧場の人材確保
（公共牧場と自社農場の運営による人材育成）

【公共牧場名】浦幌町模範牧場（北海道浦幌町）

北海道浦幌町から浦幌町模範牧場（公共牧場）の指定管理者の指定を受けている（株）希興は、乳用育成牛の預託事業を実施しているほか、自社農場で和牛繁殖事業と酪農事業を実施している。

人材確保のための募集活動を積極的に行うとともに、職員の技術研修への参加や資格取得のサポート、他県の公共牧場との技術交流を実施するなど、人材育成に力を入れている。

（株）希 興



浦幌町模範牧場（指定管理者）

所有主体　：北海道浦幌町
牧場開設年：1977年（昭和52年）
経営形態　：乳用牛預託
草地面積　：採草地 173ha
　　放牧地 184ha

自社農場

牧場開設年：2010年（平成22年）
経営形態　：和牛繁殖
　　酪農
草地面積　：100ha

浦幌町模範牧場における家畜預託事業

主に乳用育成牛の預託を行うほか、哺乳ロボットを整備し、哺乳牛（0～6ケ月齢）の預託も実施。

また、牧場内での人工授精・受精卵移植や入牧・退牧時の家畜運搬を行い、地域の酪農家の幅広いニーズに対応している。

預託期間：周年（放牧は5月下旬～10月末）
預託頭数：約850頭（乳用哺乳牛・育成牛）
預託料金(１日１頭当たり 消費税は別)
　放牧期 270円、舎飼期620円、哺育料380円
スタッフ：８名

自社農場における和牛繁殖事業・酪農事業

和牛繁殖事業

和牛繁殖雌牛：約50頭
スタッフ：２名

酪農事業

搾乳牛：約50頭
スタッフ：２名

人材確保・人材育成の取組

■人材確保■

（株）希興のホームページ、人材紹介サイトによる募集、地元の大学への積極的な勧誘活動を行って人材確保に取り組んでいる。（https://kikou-tokachi.com/）

■人材育成■

外部機関が開催する研修会への参加等を通じ、未経験者でも知識・技術を習得できるよう支援するほか、免許を取得した職員には資格手当を支給。また、浦幌町と姉妹都市提携している岩手県洋野町の公共牧場（大野共同利用模範牧場）と技術交流を実施するなど人材育成に力を入れている。

そのほか、家畜預託事業（公共牧場事業）、和牛繁殖事業、酪農事業間での人事異動を行って幅広い業務の経験を可能とし、牧場業務の管理マニュアルの整備により業務の効率化を図っている。

北海道十勝管内のＡさん（新卒者　女性）

・実家が酪農家で小さい頃から牛が可愛くて、将来は酪農をしたいと思いました。高校、大学の経験を通して酪農の魅力を知り、仕事にしようと決心しました。
・乳用牛の哺育が担当です。子牛の体調管理、給餌や哺乳、畜舎掃除が主な作業です。毎日子牛を良く観察し、健康を維持できるように気を配っています。
・子牛の成長をそばで感じられることがやりがいです。生き物が相手なので思ったようにいきませんが、元気に大きくなると頑張ってよかったと思えます。

北海道石狩管内のＢさん（経験者　女性）

・元々動物が好きで、酪農に興味を持ち転職しました。
・酪農家の皆様から子牛を預かる入牧業務、毎日の餌やりや体調のチェック、診療の獣医さんの対応、牛舎の清掃などが担当です。
・成長した子牛を見ると感慨深くなります。その度に健康な状態で大きくなれるように頑張ろうと思いますし、人懐っこい子やマイペースな子、怖がりな子など様々いますが、どの子も可愛くて癒されます。

北海道十勝管内Ｃさん（新卒者　男性）

・小さい頃から動物が大好きで、将来は何か動物にかかわりの強い仕事をしたいと思い、憧れの祖父と共に仕事をするためにこの仕事に決めました。
・黒毛和種の素牛育成業務が担当です。哺乳や飼料給与、人工授精、分娩対応等、日々少しずつ作業に変化があるため「牛をよく見る」を大切に作業しています。
・新たな命の誕生や牛たちが元気にしているところ、自分で授精した牛が受胎した感動を日々感じられることがこの仕事のやりがいです。

【本資料に関するお問い合わせ先】
一般社団法人　日本草地畜産種子協会
電話：０３－３２５１－６５０１　E-mail：info@souchi.lin.gr.jp

令和６年３月作成

公共牧場の新たな活用

地域の粗飼料生産の補完（放牧預託と乾草の生産・販売）

【公共牧場名】一区（いっく）牧野組合（熊本県阿蘇市）

熊本県阿蘇市の一区牧野組合は、組合員の肉用牛（繁殖牛）の放牧預託及び牧草・野草乾草を生産するほか、組合員及び家畜預託頭数の減少を機に、組合員外の近隣の大規模酪農家や肉用牛繁殖・肥育農家に乾草を販売して地域の粗飼料生産を補完している。

所有主体　：熊本県阿蘇市
管理主体　：一区牧野組合
牧場開設年：1971年（昭和46年）
組合員数　：８戸
経営形態　：肉用牛（褐毛和種・黒毛和種）の夏期放牧預託
　　牧草・野草の乾草ロールの生産・販売
草地面積　：採草地 15ha、採草・放牧兼用地 60ha、野草地（採草利用） 90ha

家畜預託

放牧は、採草・放牧兼用地で１番草の収穫後に実施。60haの草地を６牧区に区切って輪換放牧を行っている。放牧牛の看視業務は、組合員が交代で当番制で実施。

放牧期間：３月末～11月末頃

放牧頭数：約70頭（褐毛和種、黒毛和種）

預託料金：組合員　1,700円/頭・月　／　員外　140円/頭・日

【主な預託条件】
・放牧牛の脇腹に染色剤（染粉）で牛の名号を記載すること
・看視当番が怪我をしないように除角実施済みであること

乾草の生産・販売

採草地 15ha、採草・放牧兼用地 60ha、野草地 90haを活用して乾草を生産し、組合員に供給。組合員及び預託家畜の減少を踏まえ、組合員の他に近隣地域の畜産農家への乾草の販売も実施。

採草地の草種は主にオーチャード、トールフェスク

乾草の規格：約120kg/個（直径約１m）
牧草はラップフィルム、野草はベールネットで梱包

乾草の販売価格：牧草 4,500円/個～4,700円/個（運送費は含まない）
野草 3,300円/個（運送費は含まない）

乾草の販売先：牧草５件、野草６件
（阿蘇市、山都町、宮崎県高千穂町の畜産農家（酪農家、肉用牛繁殖・肥育農家））

乾草の生産・販売により
牧野組合の経営安定化が図られるとともに、
阿蘇の草原の維持にも貢献

今後の課題

- ワイヤーメッシュの牧柵を設置しているものの、イノシシやシカの侵入により、草地の掘り返しや牧草の食害を防ぎきれていない。
- 組合員の高齢化及び後継者不足による担い手確保。

【本資料に関するお問い合わせ先】
一般社団法人　日本草地畜産種子協会
電話：０３－３２５１－６５０１　E-mail：info@souchi.lin.gr.jp

令和６年３月作成

公共牧場の新たな活用

スマート農業技術による省力化（放牧牛の安否確認システムの活用）

【公共牧場名】農事組合法人 狩尾牧場（熊本県阿蘇市）

熊本県阿蘇市の農事組合法人狩尾牧場は、組合員からだけでなく組合員外からも肉用牛（繁殖牛）を預託して放牧を行う「熊本型放牧」※を実施。また、周年放牧に取り組み乾草を生産して冬期放牧牛に給与するほか、組合員外にも販売。その他にも、個体販売を行うなど、業務が多岐に渡っている。

このため、放牧牛の安否確認システムなどのスマート農業技術の導入による省力化を進めている。

※　阿蘇地域の牧野組合では、約30年前から県や県畜産協会の指導の下、組合員外の、放牧地を有していない畜産農家の家畜の受入（広域放牧）等を「熊本型放牧」として推進。

農事組合法人 狩尾牧場

所有主体　：熊本県阿蘇市
管理主体　：農事組合法人 狩尾牧場
牧場開設年：1969年（昭和44年）
組合員数　：13戸（畜産農家５戸）
経営形態　：肉用牛（褐毛和種）の夏期放牧預託、周年放牧、乾草ロールの生産・販売

【写真提供　熊本県草地畜産研究所】

草地面積　：採草・放牧兼用地 80ha、放牧地 10ha、野草地（放牧利用） 50ha

家畜預託

放牧は、採草・放牧兼用地、放牧地、野草地の計140haで実施。組合員外の広域放牧牛は11月末頃に退牧するが、組合員の放牧牛は周年放牧を行う。

放牧期間：周年（広域放牧の場合は ５月～11月末頃）

放牧頭数：約160頭（褐毛和種）

預託料金：組合員　夏150～冬250円/頭・日
　　員　外　夏250～冬350円/頭・日

【主な預託条件】

・牧場で流産した牛は放牧地の種雄牛(まき牛)による自然交配となることに同意すること

・妊娠牛は分娩１か月前に下牧すること

乾草の生産・販売

採草・放牧兼用地 80haを活用して乾草を生産。主に周年放牧における冬期間の給与飼料として利用する他、余剰生産量は地域外の畜産農家へ販売。

乾草の規格：約300～400kg/個（直径約1.2m）

乾草の販売価格：9,000円/個（運送費は含まない）

乾草の販売先：鹿児島県内の大規模畜産経営法人等

放牧牛の安否確認システムの活用

広大でかつ起伏の多い放牧地における放牧牛の看視に要する労働負担軽減のため、長距離無線LAN、 LPWA（Low Power Wide Area）通信システムを導入し、牛に装着したBLE（Bluetooth Low Energy）タグの検知情報やカメラ画像による安否確認システムの導入を進めている。

- 放牧牛所在確認に要する作業時間を３分の１程度に短縮。
- 節減された時間を家畜飼養管理や牧草生産などの牧場管理業務に充当。

【写真提供　熊本県草地畜産研究所】

スマート農業技術の導入で省力化を図り
牧野組合の経営安定化と阿蘇の草原の維持を実現

今後の課題

- イノシシやシカの侵入による草地の掘り返しや牧草の食害対策として、獣害対策用の牧柵の設置・更新が必要。
- 熊本地震の影響による水源枯渇への対応として、水道代の負担が増加。
- 雑草（ギシギシ、セイタカアワダチソウ等）の防除。

【本資料に関するお問い合わせ先】
一般社団法人　日本草地畜産種子協会
電話：０３－３２５１－６５０１　　E-mail：info@souchi.lin.gr.jp

令和６年３月作成